子ども総合センターだより

明日（あした）もしあわせ通信（第６６号）令和３年 12 月号

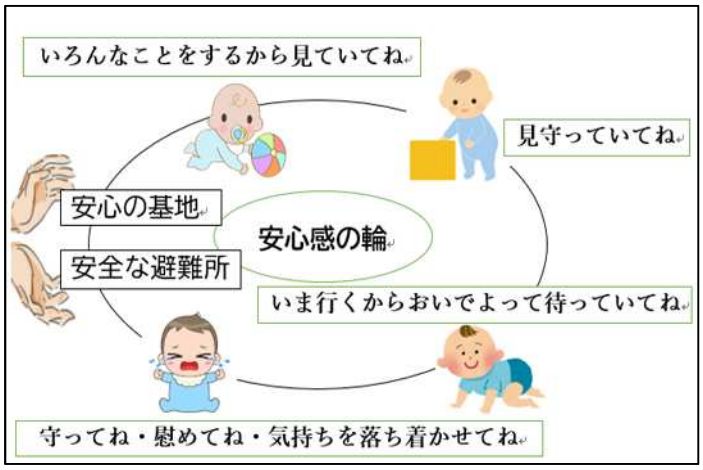
子どもの　こころの成長

子どもにとってからだの成長とこころの成長は切り離すことができません。こころが成長するには

- 安全で守られて愛されていることを感じる事
- ほかの人と一緒に過ごす事
- 新しい事を見たり、経験する事

こころが成長するにつれて

- 考えたり理解したりする力がつきます。
- 他の人と仲良くし、その人たちを好きになり信頼する力がつきます。
- 感情が発達し自分に対して自信を持ち、他の人を気にかけたりする力がつきます。



そうした、子どもの感情が豊かに育つために「安全」「守られている安心感」が大切な役割を担い、子どものこころもからだも、のびのびと成長していきます。

安全で安心の基地になれる家庭であるために、ご心配があればいつでもご相談ください。　(I)

～はばたき教室～　（子どもが一歩を踏み出す教室）

今年も東温市から巨大カボチャが届きました。今年はやや小ぶりでしたが、２個の巨大カボチャを見た子どもたちは「でかい。」と感動の声。早速、男女に分かれて目・口・顔を作っていきました。子どもたちの発想は豊かで、なんと、あっという間にお化けに変身です。

友達と相談しながら作る姿は、いつもと表情も違って楽しそうです。作っていく途中で友達との会話も生まれ、「その考えいいね。そうしよう。」などと、自分の考えが受け入れられると笑顔も見えました。自分たちで作った顔に帽子をかぶせて出来上がると、「やったあ、できた。」と、みんなで拍手。

体験活動は子どもの自信に繋がり、子どもを大きく成長させてくれます。また、自分たちのことを忘れず今年も東温市からもカボチャを運んでくれた南伊予の方の気持ちを、子どもたちは心で受け止めたようです。

相手のことを思う心の温かさが、カボチャを通してはばたき教室の子どもたちにも伝わりました。思いやりの心もカボチャと一緒に届けて下さった皆様に心から感謝です。

はばたき教室の相談ＴＥＬ　０８９－９８９－５０２２　直通の携帯　０８０－２９７４－４５８１

給食が好きっ！

味覚の秋。しいたけを炙って食す。美味し！日本人でよかった！と感謝し、「俺も大人になったもんだ」としみじみ。

だが、小さい頃は偏食が激しく、きのこ類はもとより、ほとんどの野菜が苦手だった。大転換点は小学校２年のときに始まった学校給食。提供されるメニューには苦手なものばかりだったが、当時、

私「食べたくないので残します。」先生「仕方ないなあ…」なんて優しいやりとりはない。昼休み中、友達が校庭で遊び回る姿を横目で見ながら、食べ終わるまで教室で居残りすることになる。…ひどい…

あれから50年以上経ち、当時の恩師に心から感謝している。あのとき、強制的に偏食を治してくれたおかげで、今、日本の豊かな味覚を存分に堪能できる立派な食いしん坊になりました。ためらう背中を“どかん！”と押してくれた先生の力強さに感謝です。

しかし、今日の社会では、教師であれ親であれ、子どもの背中を“どかん！”と押すことをためらう。子どものためになる、と信じていても、子どもの意に反した強制は許されていない。でも、押してやることで子どもが行くべき道が開けることもあるのだ、とも思う。だから親として子どもの背中を押してやりたい時がある。その力加減が難しい。（TK）

センター長のつぶやき

最近の読書から(2)「52ヘルツのクジラたち」

「2021年本屋大賞」を受賞した「町田そのこ」さんの、初めての長編小説。

「52ヘルツのクジラ」とは、他のクジラが聞き取れない高さの周波数で鳴くクジラのこと。「世界で最も孤独なクジラ」といわれている。

読み始めると、心情や情景が丁寧に描かれていて、主人公の貴瑚(親から虐げられた女性)の気持ちがすっと入ってきて、一気に読み進むことができた。

貴瑚が逃げるように移り住んだ海沿いの町で、母から虐待を受けている中学生と出会い、二人を中心に、町の人々のさまざまな人間模様が描かれている。

町田さんは、対談のなかで「人と人との『つながり』をすごく書きたかった。傷つける関係もあれば、支え合って助け合うつながりもある。人は最初こそ[もらう側]だけど、いつか人に[与える側]にならないといけない。『声なき声』に気づいて受け止められる人でありたい。」と言われていた。

私は、教員生活35年から現職にいたるまで『声なき声』を受け止め[与える側]になれていたのだろうか、行動は伴っていたのだろうか、もっとできることはなかったのだろうか、と反省せざるを得ない。

ならば、人生の総仕上げを、「そんな素敵な人になりなさい」との声に応えていける日々であり続けたいと願う今日この頃である。（DOIG）

《巡回発達相談》子は親の鏡

１８９（いちはやく）これは児童相談所虐待対応ダイヤルの番号です。テレビで取り上げられる児童虐待のニュースを聞くたびに、心が締め付けられます。

虐待を受けると、ストレスホルモンが過剰に分泌され、脳はダメージを受け、その結果自分で感情のコントロールができなくなり、凶暴になると言われています。親からけなされて育った子どもは、人をけなすようになり、叱られ続けて育った子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまいます。どの子にも必ず良い所はあり、褒めてあげれば明るい子に育ち、見つめてあげれば、頑張り屋さんになります。励ましてあげれば、子どもは自信を持つようになり、広い心で接すれば、キレる子にはならないのです。

虐待相談電話の必要がない世の中になっていきますよう切に願っています。　（K）

伊予市子ども総合センター
〒799-3127 伊予市尾崎３－１
伊予市総合保健福祉センター２階
☎９８９－６２２６